

■発行／(社) 京都府医師会

これだけは知っておきたい
健康の知識

VOL. **66**

前立腺がん検診

前立腺がんの早期発見・適切治療のために
50歳以上の男性は、前立腺がんPSA検診
を受けましょう

二〇一二年一〇月より
京都市の

前立腺

がん検診

がはじまりました。



早期
発見

適切
治療

PSA 検診

2012年10月より、新たに京都市の前立腺がん検診がはじまりました。

PSA検査という簡単な血液検査による検診です。

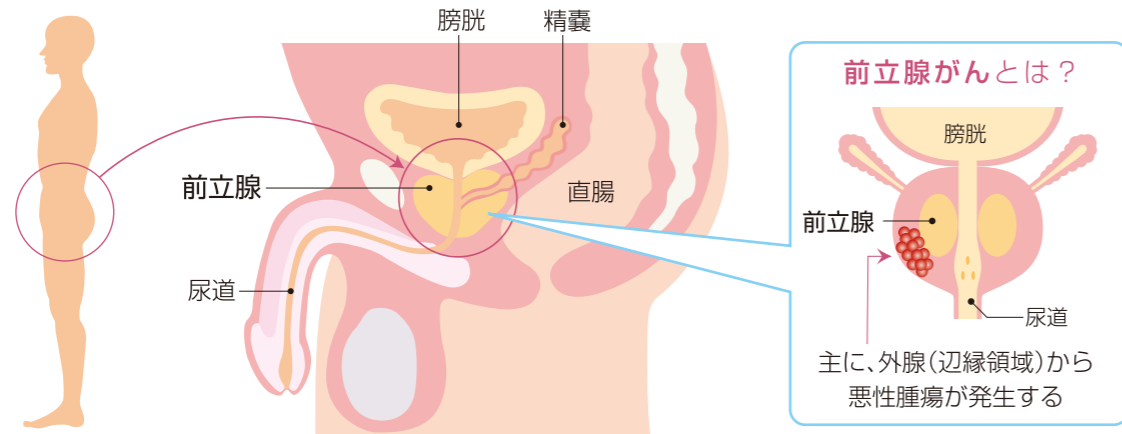
前立腺がんは初期には症状が乏しく、大半は、この血液検査ではじめて見つかります。

今回のBeWellでは、前立腺がん早期発見の切り札、「前立腺がんPSA検診」についてご説明します。

前立腺がんは中高年男性に特有のがんです。

皆さんは前立腺という臓器をご存じですか？

膀胱のすぐ下、ペニスの付け根付近にあるクルミ大の臓器で男性にしかありません。



前立腺の働きは、精液の成分を作ることですので歳をとるにつれて必要がなくなります。その必要なくなった前立腺にも「悪性」のがんができます。それが前立腺がんです。中高年男性に特有のがんといえます。

前立腺がんは年々増加しています。

なぜ前立腺がん注目が集まっているのでしょうか？

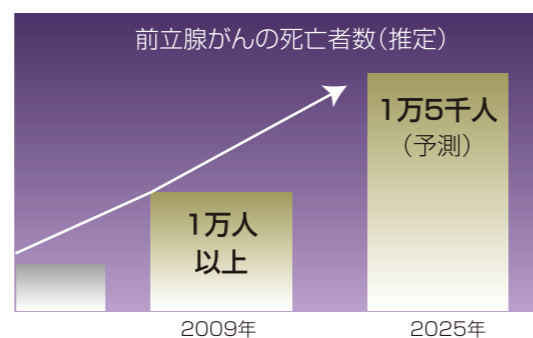
中高年男性のがんの中では患者数の第1位

アメリカでは30年以上前より、数あるがんの中でも一番多いがんだといわれており、がんによる死亡原因では2位を占め、社会問題になっていました。幸い、1980年代後半から普及した前立腺がん検診とその後の適切な治療の結果、最近では死亡率が低下してきています。



わが国でも、高齢化社会に加え、食生活の欧米化などに伴い、アメリカを追うような形で、年々、前立腺がんが増加しています。

厚生労働省の調査では、すでに、中高年男性のがんの中では患者数の第1位を占め、将来も増加を続けると推定されています。



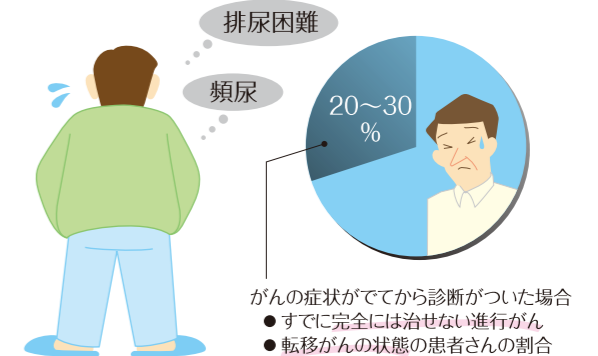
前立腺がん患者数の増加に伴い、その死亡者数も増え続けており、2009年には1万人以上が前立腺がん死亡したと推定され、このままでは将来も増加を続け、2025年には1万5千人になるとの予測も出ています。前立腺がんはすでに日本でも身近ながんといえるでしょう。

前立腺がんは早期発見が大切です。

前立腺がんにはどのような症状があるのでしょうか？

完全に治すことができる早期の前立腺がんにはほとんど症状がありません。

「良性」の病気である前立腺肥大症を合併していれば排尿困難や頻尿の症状から診断に至ることもありますが、がんの症状がでてから診断がついた場合、20~30%の患者さんではすでに完全に治すことができない進行がん、転移がんの状態です。



「悪性」の前立腺がんの発見には無症状であっても積極的に検査を受ける必要があります。

その役割を担っているのがPSA検査という血液検査です。

早期の前立腺がんには自覚症状がほとんどないからこそ受けていただきたいのです。

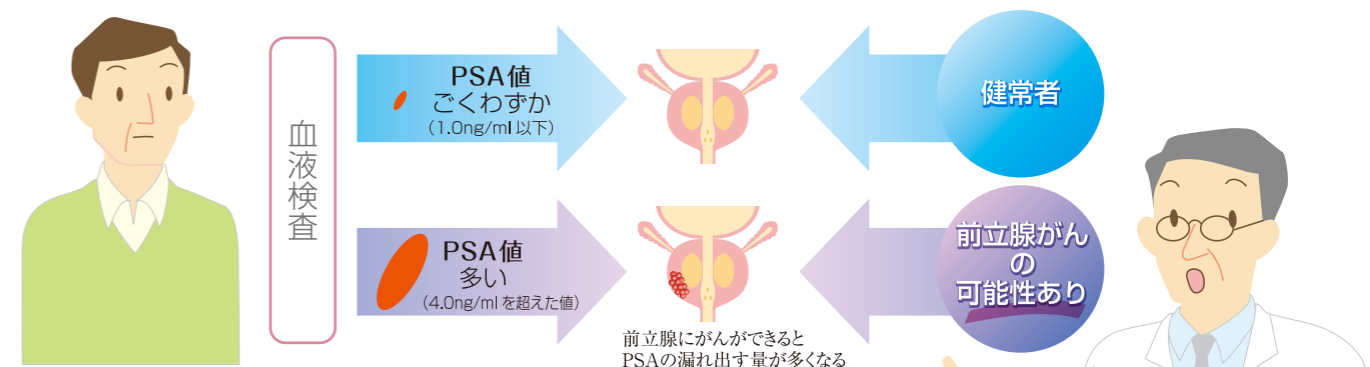
PSA検査は前立腺がん早期発見のための検査です。

PSA(ピーエスエー)って？

日本語では前立腺特異抗原と呼ばれ、普通は前立腺の中に存在しています。

ただ、そのごく一部が、血液の中に漏れ出すため、血液検査で量を測ることができます。健康な人の血液にも存在しますが、前立腺にがんができると

漏れ出す量が多くなるため、検査の値が高くなるのです。ごく少量の血液があれば測ることが可能で、前立腺がん早期発見の切り札となっています。



PSAは健康者にも存在します。PSA検査は前立腺がんの可能性のある人を見つける検査です。

前立腺がん検診でPSA検査が受けられます。

PSA検査はどこで受けられるのでしょうか？

- 何らかの排尿に関連した症状があればほとんどの医療機関で受けることが可能です。
- 人間ドックの項目としても多くの施設で選択が可能です。

しかしながら、50歳以上の男性の4分の3はPSA検査を受けているといわれている米国と比べ、わが国のPSA検査の浸透はかなり遅れていると言わざるを得ません。

より多くの人にPSA検査の恩恵を受けてもらうために始まったのが**住民検診としての前立腺がん検診**です。

PSAによる前立腺がん検診の受診によって、前立腺がんによる死亡のリスクが低下することが知られています。

京都市の場合、**50歳以上の男性を対象に、多くの医療機関でPSAによる前立腺がん検診を受けることができます。**

PSA検診

簡単な血液検査ですので、かかりつけや近所の医療機関で積極的に検査をうけましょう。



前立腺がんはPSA検査を含め総合的に診断されます。

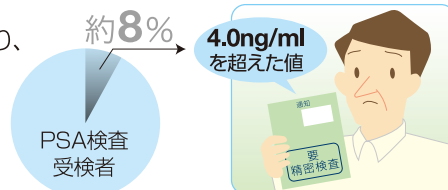
検診の結果、PSA検査値が高かったらどうしたらいいのでしょうか？

全員ががんであるというわけではありません。

STEP 1

PSA検査結果の目安は一般的には4.0ng/ml以下といわれており、京都市の場合、**この値を超えると、要精密検査の通知が届きます。**

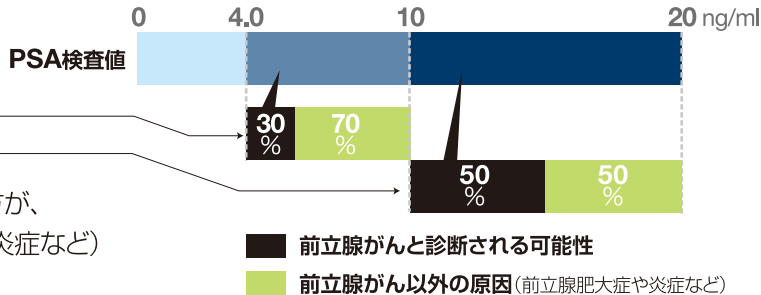
PSA検査を受けると、約8%の方が、要精密検査となりますが、その全員ががんであるというわけではありません。



STEP 2

前立腺がんと診断される可能性はPSA検査値が高いほど高くなり、**4~10ng/mlで約30%程度、10~20ng/mlで50%程度**です。

裏を返せば、4~10ng/mlの約70%の方が、**前立腺がん以外の原因(前立腺肥大症や炎症など)でのPSA検査値の上昇と判断されます。**



STEP 3

- PSA検査値に加え、
- 前立腺の画像診断
 - 前立腺直腸診(肛門から前立腺を触診)などを行い、

前立腺がんの疑いを絞っていく、

前立腺針生検という検査で最終診断を下します。

※これらの診断、および、診断後の治療に関しては、専門的な判断が必要ですので、泌尿器科医が担当することとなります。

PSA検診を受ける前に知っておきたいこと がん検診は、がんの早期発見という「利益」を目的として実施されますが、精密検査に伴う合併症などの「不利益」も存在します。前立腺がんPSA検診も例外ではありません。先に説明しましたが、前立腺がんではないのにPSA検査値が高く出ること(検査の偽陽性)も一種の不利益といえます。精密検査として行われる前立腺針生検の後に、まれではありますが、直腸出血や感染症で治療が必要となることがあります。また、治療介入を必要としない、おとなしい前立腺がんが発見される場合もあります。治療に関しても、合併症や副作用などを伴う可能性もあります。このような不利益をできるだけ避けるために精密検査が必要になった場合は、精密検査実施医療機関を必ず受診し、専門医(泌尿器科医)と十分話し合ったうえで検査や治療の方針を決定してください。



京都府医師会

〒604-8585 京都市中京区西ノ京梅尾町3-14 TEL:075-354-6101 (代表)
<ホームページ><http://www.kyoto.med.or.jp> <E-mail> kma26@kyoto.med.or.jp

●発行 WINTER 2013 ●